



収穫の喜び（常陸大宮市） 第12回大好きいばらき農業農村フォトコンテスト入賞作品

### 主な目次

第31回全国土地改良大会が秋田県で開催	2
農業基盤整備資金の金利改定について	3
平成21年度農業農村整備事業概算要求の概要	4
「農業農村シンポジウム2008」の開催	5
「農業農村ウォーキング2008」の開催	6
「水と土と農キャンペーン」の実施	6
水土里ネット探訪 Vol.14	7
(有ヶ池江下土地改良区、羽賀沼土地改良区、七郷中川土地改良区)	

## 第31回全国土地改良大会が秋田県で開催

第31回全国土地改良大会・秋田大会が、去る10月14日（火）午後1時から秋田市の秋田県立武道館において、全国水土里ネット、水土里ネット秋田の主催により、大会テーマ「あすを拓く大地きらめく疏水 たくましき郷（さと）」の下、全国から土地改良関係者約3,900名が参集し開催されました。

後援は農林水産省、秋田県、秋田市。

今大会は、食料自給率の向上や食の安全・安心の確保などの課題解決に向け、農業・農村が担っている役割を広く国民にアピールするとともに、活力ある農業・農村づくりのために、今できること・しなければならないことについて、関係者一同がとともに考える場となりました。そして、「大地」「疏水」「郷」を国民共有の貴重な財産として、水土里ネットが一致団結し、守り・育み・伝承していくことを声高らかに宣言しました。

式典では、開催県挨拶として水土里ネット秋田の高畠会長により、また主催者挨拶として全国水土里ネット野中会長により挨拶が述べられました。

引き続き土地改良事業功績者表彰、21世紀創造運動大賞の発表及び表彰式が行われました。

土地改良事業功績者表彰の部では、農林水産



大臣賞が5名、農林水産省農村振興局長賞が16名、全土連会長賞が48名の計69名が受賞しました。

本県からは、本会副会長・豊田新利根土地改良区理事長雑賀正幸氏が農林水産大臣表彰を、菅生沼土地改良区理事長倉持泰仍氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞しました。

創設から第6回目になる今年度の「21創造運動大賞」受賞地区については、全国から7地区の水土里ネットが表彰された。

また、昨年創設された21創造運動大賞さなえ賞については、11地区の水土里ネットが受賞しました。

次期開催県については、平成21年10月島根県において開催されることが発表され、秋田県より島根県に大会旗の引き継ぎが行われました。水土里ネット島根の青木会長の挨拶と共に、大会スローガン「国引きのロマン、水土里の想い。神話の郷から今、未来へ。」が紹介されました。

続いて、全国水土里ネットの吹田副会長の音頭により、今大会の成功と、併せて次期第32回島根大会の成功を祈念して万歳三唱が行われました。

最後に、水土里ネット秋田高橋副会長が閉会の挨拶として、本大会が無事盛会裡に終了した御礼・感謝のことばで結びました。



### 平成20年度 21創造運動大賞

受賞地区	都道府県	副題
水土里ネット奥瀬堰	青森県	環境学習プランナー
水土里ネット越前堰	岩手県	歴史伝承コーディネーター
水土里ネット射水平野	富山県	歴史伝承マイスター
水土里ネット揖鹿谷(はしかだに)	兵庫県	農村活躍プランナー
水土里ネット祇園町外ニケ町	島根県	水辺環境エキスパート
水土里ネット香川用水	香川県	水の守り手マイスター
水土里ネットてんめい	熊本県	環境循環プランナー

## 大會 宣 言

我が国はアジア・モンスーン気候に属する豊かな四季と世界に誇る食文化を有する美しく豊かな国です。そして秋田は豊かで多様な食と景観と文化を有する豊穣の大地です。

ところが、1960年には80%近くあった我が国の食料自給率は現在40%程度まで低下し、その結果日本人の食卓は不安を抱えながらも外国の食材を抜きには成り立たず、その食生活を維持するためには、国内農地の2.7倍分の農地と国内農業用水とほぼ同じ水量を海外に依存している状況となっています。一方で世界の食料援助量の3倍もの食品を廃棄し、水田の耕作放棄地も年々増加している状況にあります。

今、世界は、65億人以上の人口を養うため、「食料」と「エネルギー」と「水」を奪い合う時代に突入したとも言われており、もはや地球は人類を養えるぎりぎりの限界にある中、日本をはじめ先進国がその経済力にものを言わせて資源を買い漁ることがいつまでも許される状況ではありません。

今こそ、国民のニーズに合わせた足腰のしっかりした日本農業を再構築していくことが、國民から強く望まれています。

水土里ネットが担ってきた土地改良関係の社会資本は、千数百年に亘り脈々と受け継がれ守り継がれて構築されてきた貴重な社会ストックであり、豊穣な国土を形成する大地とそれを潤

す血潮そのものとなっています。日本農業を再生し、自給率を向上させ農業を持続的に発展させていくためには、これらのストックを今後も有効に活用することが不可欠であり、これらを管理し保全している「水土里ネット」と「土地改良」の役割はますます重要となっています。

今世紀は「環境の世紀」と呼ばれていますが、地球規模で持続的な環境を維持していくためには、限りある資源である「食料」「エネルギー」「水」を適正に配分し、最大限効率的に利活用していくことが必要です。

「水」と「土」と「里」を健全に保全管理していくことを使命とする「水土里ネット」こそが、「食料」と「エネルギー」と「水」という資源そのものの担い手であることを皆が強く自覚し、農家のみならず國民からも信頼と信託を得るように今一度力を結集し、真剣にその存在をアピールしていくことが求められています。

「あすを拓く大地」「きらめく疏水」「たくましき郷」を國民共有の貴重な財産として、私達水土里ネットが一致団結し、守り・育み・伝承していくことを、ここ秋田において高らかに宣言いたします。

平成20年10月14日

第31回全国土地改良大会 秋田大会

### 農業基盤整備資金の金利改定について

(株)日本政策金融公庫(旧農林漁業金融公庫)が貸し出す農業基盤整備資金の貸付金利が、平成20年11月20日以降下記のとおり改定されました。

記

(単位: %)

区分	改定前(H20.10.21)					改定後(H20.11.20)				
	融資期間に かかわらず	融資期間別(一例)				融資期間に かかわらず	融資期間別(一例)			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	1.95	—	—	—	—	1.95	—	—	—	—
団体営補助残	1.80	—	—	—	—	1.80	—	—	—	—
非補助	1.80	—	—	—	—	1.80	—	—	—	—
災害復旧	—	1.45	1.45	1.65	1.80	—	1.35	1.35	1.65	1.80

## 平成21年度 農業農村整備事業 概算要求の概要

平成 21 年度 農業農村整備事業 概算要求額  
729,996 百万円 (対前年度比 109.3%)

(単位：百万円)

事 項	H21年度要望額
農業農村整備事業	729,996
〈農業生産基盤整備・保全等〉	626,813
用排水施設の整備	252,801
・水利区域内農地集積促進整備事業（新規）	300
・地域農業水利施設ストックマネジメント事業（新規）	2,000
農地の整備	172,273
・耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業（拡充）	1,100 の内数
・農地有効活用緊急基盤整備事業（新規）	2,000
農道の整備	32,939
農地の防災保全	108,467
・国営造成土地改良施設防災情報ネットワーク事業（新規）	1,560
・地域ため池総合整備事業（新規）	300
その他	60,333
・炭素貯留関連基盤整備実験事業（新規）	500
・水土里環境を守ろう特別支援事業（新規）	200
・水田環境向上基盤整備支援事業（新規）	50
〈農村整備〉	103,183
農業集落排水施設の整備	18,341
農村の総合的整備	44,398
・地域用水環境整備事業（拡充）	2,838 の内数
中山間地域の整備	38,173
・農地環境整備事業（拡充）	1,378 の内数
その他	2,271

注) 計数整理の結果、異動を生ずる場合がある。

計算は四捨五入の関係上、端数において合計と一致しない場合がある。

上記のほか、地域再生基盤強化交付金措置額を内閣府に計上している。

## 「農業農村シンポジウム2008」の開催 ～みんなで守ろう！茨城の農業農村～

去る11月18日（火）午後1時から小美玉市四季文化館「みの～れ」森のホールにおいて農業農村シンポジウム実行委員会（茨城県・水土里ネット茨城）の主催により「農業農村シンポジウム2008」が開催され、一般の参加者や土地改良区役職員、市町村農政担当職員等約600名が参集しました。

今年のテーマは、～みんなで守ろう！ 茨城の農業農村～。

いまや農業・農村は農業従事者の高齢化・減少、遊休農地の増大、また、集落機能の低下など様々な課題に直面しており、農地の保全や集落機能の維持が困難な状況になりつつあります。

そのため、食料の安定供給だけでなく、国土や環境の保全など多面的機能を有している農業・農村を、地域の人々と共に守り受け継いでいくことの重要性について、広く県民に理解していただくことを目的に開催したものです。

川俣副知事、水土里ネット茨城小嶋専務理事による主催者挨拶の後、土地改良功労者表彰に



入り、渡里台地土地改良区理事長の安藏謙二氏、玉造南部土地改良区理事長の村松建一氏、山川沼土地改良区理事長の照内武氏、西総土地改良区理事長の戸塚幸男氏の4名が茨城県知事表彰を受賞しました。また、「農地・水・環境保全向上対策」や「中山間地域等直接支払制度」に取り組む優良な活動組織と集落を表彰する第1回茨城県美しい水土里づくり優良活動表彰においては、最優秀賞（茨城県知事賞）に笠間市の土師みづほの会（農地・水・環境保全向上対策部門）と、高萩市の秋山上・北方集落（中山間地域等

直接支払制度部門）が、さらに特別賞（県土地改良連合会長賞）には鹿嶋市の鹿島湖岸北部資源を守る会（農地・水・環境保全向上対策部門）が表彰されました。さらに優秀賞は下記の通り。

続いて、「田んぼはワンダーランド」と題して宇都宮大学農学部教授（メダカリ親の会会長）水谷正一氏による基調講演が行われ、日本やア



ジアを例に世界の田んぼの歴史や現状、その価値や新しい取組み、更にそこに棲む生き物との共生等、各地の事例を紹介しながら分かりやすく説明されました。

続いて、活動事例の発表においては、まず福島県白河市の深渡戸（ふかわど）ふるさと保全会の滝田国男様により「蘇った地域の和（輪）－活動がもたらした財産－」と題し、保全会の活動を、さらに、鹿島湖岸北部資源を守る会の山野市郎様に「地域と密接に結びついた取組」と題し、農業者・行政区・水土里ネットの連携による活動状況の発表がありました。

### ○優秀賞（茨城県農林水産部長賞）

#### 《農地・水・環境保全向上対策部門》

長田地域資源保全活動組織（常陸大宮市）  
行戸・小幡資源環境保全隊（行方市）  
釜井環境保全委員会（稲敷市）  
本郷・水と緑の会（取手市）  
下泉地区農村資源保全活動組織（桜川市）  
森戸南部地域資源保全協議会（境町）

#### 《中山間地等直接支払制度部門》

平山集落（日立市） 東染集落（常陸太田市）  
内野集落（北茨城市） 長田集落（常陸大宮市）  
山口集落（桜川市） 北ノ根集落（城里町）  
中郷集落（大子町）

## 「農業農村ウォーキング2008」の開催

去る11月15日（土）、笠間市北山公園を起点に第6回「農業農村ウォーキング2008」が、水土里ネット茨城の主催により、総歩行距離6kmの行程で行われ、スタッフを含め総数77名、5歳から79歳と幅広い参加者を得て開催されました。

このウォーキングは、地域の歴史的財産を巡ることにより、食料の安定供給だけではなく県土や環境の保全など多面的機能を有している農業・農村や土地改良施設の役割や重要性について地域の人々に理解を深めてもらうことを目的に開催されています。

本会の渡辺事務局長の挨拶ののち、参加者は2班に分かれ、北山公園～新池取水口～白鳥湖～南友部第一用水機場～ビオトープ天神の里を目指してスタートしました。

紅葉真っ盛りの新池では、ここが公園内なので取水口や護岸整備などの土地改良工事について環境・景観に配慮した工事を行ったこと、さらに白鳥湖が、約40haの水田の水源になっていることなどの説明がありました。



四季を通じて美しい新池と取水口



第一用水機場のポンプを見る

また、南友部第一用水機場では、機場内部の見学やポンプの大きさ、調整池の貯水量などの説明を、笠間市土地改良事業運営協議会の職員より受け、参加者は熱心に聞き入っていました。

さらに、ビオトープ天神の里では、かさま環境を考える会の橋本室長より、この地域の環境保全の取組について説明を受けました。

正午過ぎ、全員ゴールイン。農業農村クイズに答え記念品を受け取った参加者は、『農業・農村は米や野菜を生産するだけだと思っていた。しかし、パネルを見て土砂崩れを防いだり、気温を調節しているんだということが分かりました。県内にため池の数が1600ヶ所もあるというのはビックリです』などと話していました。

今回のウォーキングに際してご協力頂きました茨城県・笠間市・笠間市土地改良事業運営協議会・JA茨城中央直売所「土からのたより」・笠間観光協会・かさま環境を考える会の皆様に厚くお礼申し上げます。

## 「水と土と農キャンペーン」の実施 ～今年度は「いばらき森林の感謝祭」に出展参加～

去る11月22日（土）、「いばらき森林の感謝祭」が、水戸市の茨城県三の丸庁舎広場を会場に開催され、本会（水土里ネット茨城）では第11回を数える「水と土と農キャンペーン」として出展、農業農村整備事業について広く来場者にPRしま

した。

この「いばらき森林の感謝祭」は、本年4月から森林湖沼環境税が導入され、本県においても県北地域や筑波山周辺の森林、平地林・里山などの身近な緑、霞ヶ浦をはじめとする湖沼・河川など、

豊かな自然環境を守ると共に、県民全体で森林を守り育てていこう」という気運の醸成を図るため開催されたものです。

地球温暖化が世界的な環境問題となっているなか、森林は林産物の供給のみならず、県土の保全や水資源のかん養など公益的機能を有していること等、農業農村のもつ多面的機能について広く県民に発信している本会としても、併せ持つ共通性を強く



認識し後援団体として参画、出展ブースを確保しました。

農業農村整備事業のクイズ、パネル展による農業生産上の役割や水田のもつ多面的な役割の紹介、土地改良区の役割や農業集落排水への接続率向上等の周知を図り、クイズの参加者へは、「ミドリ（水土里）ン」携帯ストラップや「水土里レンジャー」メモ帳をプレゼント。用意された350個が正午には配り切れてしまうほどの大盛況でした。

# みどり 水土里 ネット ・・・探訪

Vol.14

## ◆有ヶ池江下土地改良区



理事長 関 宗長

所在地：茨城県那珂市額田東郷1350 TEL 029-298-6211

受益面積：188ha

受益地：那珂市

組合員数：639名

理事 事：12名

監 事：2名

総 代：42名

職 員：2名

### 土地改良区の概要

当土地改良区は、那珂市に位置し、額田南郷水郡線より北東に向って久慈川右岸に展開する水田

地帶である。地形は額田南郷地区及び有ヶ池地区は南北は山に囲まれた谷間の田であり、江下地区は北側が本米崎四堰地区に接し南側が本米崎及び



平成20年3月完成 久慈川用水樋管ゲート

額田東郷の台地の間の平坦な田である。

用水は主に久慈川を水源とし有ヶ池揚水機場から取水し、送水管及び隧道を経て地区内へ導水し、各揚水系統へ分水し、自然灌漑しているが、機場及び送水管、隧道の老朽化が著しいため、経営体育成基盤整備事業により全面改修及び補強工事を実施し、用水の安定供給を図るべく取り組んでいる。

排水は小排水路を流下の後、幹線用水路を経由して、本米崎排水樋門と排水機場により久慈川に自然排水し、洪水時は機械排水する。

道路は地区の西側に主要地方道常陸那珂港山方線が南北に走り、北西側及び北東側には市道が走っている。地区内道路はそれぞれ田に接しているが幅員が狭く大型農業機械の通行等営農上支障が生じる区域もある。

圃場整備後20～40年を経過し、支線用排水路等施設の老朽化、沈下、山際の湿田、休耕地等多くの課題があるが、各方面のご指導を頂きながら今後第2次整備として検討を進めていく予定です。

#### 有ヶ池江下土地改良区の沿革

有ヶ池は、鎌倉時代の初期、額田城主佐竹義直が額田城築城の際造られたもので、『千石溜』ともいい、永年に亘り江下地区の貴重な灌漑用水源であった。第二次世界大戦に入り、緊急食糧増進対策の一環として干拓開田の國の強い要望もあり、江下耕作者の同意を得て昭和18年「有ヶ池江下耕地整理組合」を設立、有ヶ池30haの開田に着手、用水は久慈川から揚水し有ヶ池及び江下水田

に灌漑した。この工事は戦争前後の極端な資材の窮乏、有ヶ池の軟弱な地盤、隧道工事など困難を極めたが、直営により昭和22年に竣工した。

ついで、土地改良法の制定に伴い、昭和27年「有ヶ池江下土地改良区」と改組し、その後農業構造改善事業として昭和39年より江下全域123ha、下河原地区6ha余を編入し用排水、区画整理事業を実施し昭和41年3月完了した。その後、昭和45年度に機場、揚水機等を更新し、取水、用排水の安定を期した。

しかし、もとの溜池を開田した有ヶ池地区は軟弱地盤の小区画湿田で、農業機械の導入不能な農地であり圃場整備の必要があった。また、編入した上流の条件の悪い未改良湿田である額田南郷地区、白鳥地区も改良を迫られた。更に大排水路は土水路で改良に迫られ、昭和54年より団体営圃場整備事業額田南郷地区、団体営圃場整備事業有ヶ池地区、団体営かんがい排水事業を実施し昭和62年に完了し、農業機械も導入が容易になり生産基盤も強化、生産性の向上が図られた。

この地域は、久慈川からの用水以外に水源に乏しいため、施設の改良整備事業に努めなければならず、本機場及び送水路、隧道の老朽化に伴い平成17年度より経営体育成基盤整備事業として採択され、平成22年度完了を目指し、機場及び用水樋管の新設、隧道工事、農道工と施工中である。また、基盤整備事業と併せて担い手の育成、農地集積（区画整理）にも取り組み中である。



額田東郷岸桂寺

有ヶ池江下土地改良区創立35周年記念碑－昭和54年7月27日(千石溜)  
団体営三大事業竣工記念碑－昭和63年7月22日(新有ヶ池)

## ◆羽賀沼土地改良区



理事長 青宿 昌夫

所在地：茨城県稲敷市江戸崎甲2148-2 TEL 029-892-2400

受益面積：619ha

受益地：稲敷市

組合員数：983名

理事事：15名

監事：3名

総代：45名

職員：2名

### 土地改良区の概要



羽賀沼排水機場

本土地改良区は県南部の旧江戸崎町と新利根町に位置し、通称 羽賀沼、荒沼と呼ばれていた両沼は、霞ヶ浦へ流入する一級河川、小野川の遊水地として長い間その機能を果たして来たものであります。昭和27年に故手島録一氏の発案と地域の方々の念願かなえ、小野川河川改修工事が採択に至ったのであります。

この公有面積147haを干拓して併せて背後農地313.5haの用排水事業を行う機運が高まり小野川左岸にある羽賀沼、荒沼の干拓計画と既農地を抱合して圃場整備を実施することとなり、昭和40年に羽賀沼土地改良区が設立されました。

以来、背後農地の基盤整備、羽賀沼干拓の干陸整備壳り渡し、そして昭和56年旧江戸崎町の北西部に位置する沼里土地改良整理組合と合併、更に平成4年に荒沼干拓の整備も完了して、一連の土地改良事業も幾多の困難にさらされた事業でしたが、今日の様に美田化されたのは、先輩諸兄やご指導いただいた関係機関各位の賜であります。現在は、平成20年度開通の首都圏中央連絡道路の江戸崎インターまでの竣工、工業団地の整備、首都圏より60km以内等の条件が重なって当地域の更なる発展が期待されるところです。

当改良区は現在一級河川の小野川、沼里川そし

て準用河川の花指川を水源として、9つの用水機場、深井戸による用水機場12機場、反復循環機場1機場、そして羽賀沼、荒沼にそれぞれの排水機場を有して全耕地を網羅し改良区を運営しております。

### 土地改良事業

本土地改良区は羽賀沼、荒沼の2つの干拓事業が関連しているため、排水方法は何れも排水機場によるものであります。羽賀沼排水機場は河川改修により整備された、新河道の完成を待つて新築された訳でありますが、周辺の地盤沈下と相まって機場も老朽化され、小野川よりの漏水が年毎にひどくなり、機場周辺の整備を余儀なくされたのであります。結果、平成10年に県営湛水防除事業が採択になり平成18年度までに、排水機場の隣接地への新築と中央排水路の工事が竣工に至ったのであります。現在は霞ヶ浦開発に伴う河川水位上昇にも拘わらず対応に万全を期しております。

又、40年以上前に基盤整備された地域には土地総合事業も取り入れ用水設備をパイプライン化して排水は小排水路、支線排水路共に排水フリュームを設置、道路の拡幅。客土、暗渠排水の導入等、農家の要望に沿った事業を展開しております。又、別地域では平成16年度より新農業水利システム事業、更に農地・水・環境保全向上対策事業にも加



土地改良区役職員

入して地域の融和と発展に寄与しています。

今後に残された課題は、いかに改良区施設の長寿命化をはかるための検討を、組合員をはじめ全

役職員一丸となり、又、関係機関のご指導の下に取り組んでいかなければならないかと考えているところでございます。

## ◆七郷中川土地改良区



理事長 小川 博

所在地：茨城県坂東市法師戸321番地2 TEL 0297-38-2258

E-Mail:n.ntokai@axel.ocn.ne.jp

受益面積：290ha

受益地：坂東市

組合員数：589名

理事事：12名 監事：3名

総代：36名 職員：3名

### 土地改良区の概要

当土地改良区は茨城県南西部の坂東市に位置し、利根川沿いに開けた総面積 290ha の広大な水田地帯である。地区周辺の主な道路としては、地区内を南北に走る主要地方道つくば・野田線、東西に走る県道小山・菅生・小堀停車場線がある。本地域は古来よりの湿地帯であり、明治44年から大正15年にかけて耕地整理組合をつくり、干拓も併せて工事を行い施設の整備をした。後、昭和に入ってからも施設の整備をし、昭和59年～60年にかけて湛水防除事業により排水機場を造り、排水を行っている。

用水については、平成13年度にかんがい排水事業にて新設された、蓮打用水機場を用水源として利根川より取水し、開水路にてかんがいを行っており、排水については矢作排水機場により自然排水または機械排水している。



利根川堤防から望む「矢作排水機場」

### 最近の状況

現在本土地改良区が行っている事業は、経営体



JAまつりで手打ちそばの無料配布

育成基盤整備事業（旧ほ場整備事業）である。平成14年度に採択を得、200haの区画整理と幹線道・排水路の整備を行い、大型機械の導入を可能にする田畠の大区画化、田畠輪換を可能にする乾田化、用水施設のパイプライン化とファームポンドの設置により柔軟な水管理を可能にする。また事業に併せ生産者組合を設立し、担い手農家への農地利用集積を図っている。

また、本事業によりできたほ場を利用し、ひまわりを蒔き、夏には七郷中川「ひまわりの郷」を開催し、ひまわり広場を中心として、地元住民および消費者とのふれあい交流イベントを通じて、農業・農村に対する認識を深めるとともに、継続的に消費者ニーズの把握・収集に努め、安全で高品質な農産物の安定生産と販売促進を図っている。

また、11月には、同じ休耕田で蒔いたそばを収穫し、地元岩井農協のJAまつりに参加し、収穫したばかりの常陸秋そばによる手打ちそば2,000食を配布し、行列ができるほどの盛況ぶりだった。

今後も事業の早期完了を目指し、事業の推進にあたっていきたい。